

2025年3月期 第1四半期

スモールミーティング

2024年8月8日



(東証プライム市場・札証：8524)

目次

I 2025年3月期 第1四半期 決算

1	業績概要（単体決算）	P 1
2	業績概要（連結決算）	P 2
3	資金利益・貸出金利息・預金	P 3
4	貸出金	P 4
5	有価証券運用	P 5
6	役務取引等利益	P 6
7	経費	P 7
8	開示債権	P 8
9	2025年3月期業績予想	P 9
10	金利上昇の影響	P10

II その他トピックス

1	ROE向上にむけて	P 11
2	成長期待分野への投融資	P 12～P 17
3	政策保有株式	P 18

【 ご注意事項 】

- 資料には当行グループの将来の業績、経営目標などに関する記述が含まれております。
- こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- 将来の業績は経営環境の変化などにより、予想と異なる結果となる可能性があることにご留意ください。
- 当行以外の金融機関に関する情報は一般に公知の情報に依拠しております。
- 表示金額は特にことわりのない場合、表示金額未満を切り捨てております。

I . 2025年3月期 第1四半期 決算

1. 業績概要（単体決算）

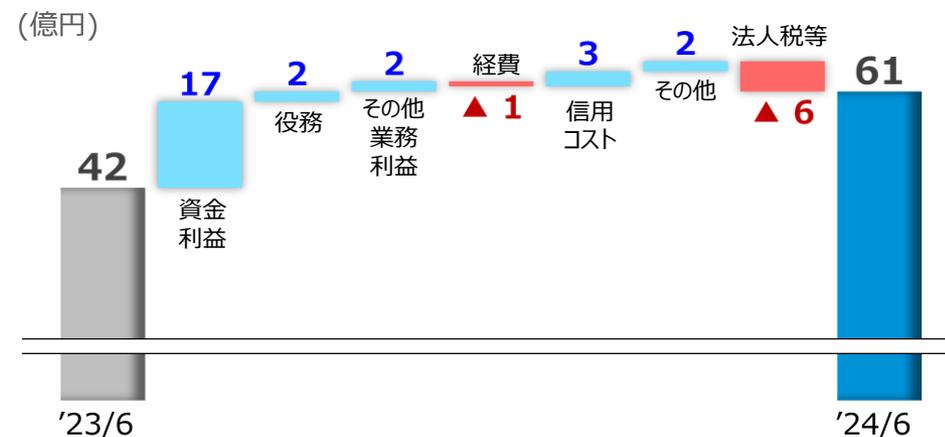
資金利益の増加を主因に、各利益において前年比増益

【単体】 (単位：億円)	'24/6期 実績	前年 同期比	計画 進捗率
コア業務粗利益	231	+21	26.9%
資金利益	200	+17	26.8%
貸出金利息	149	+7	24.2%
有価証券利息配当金	50	+10	35.5%
その他資金収支	5	+3	35.7%
役務取引等利益	27	+2	26.7%
その他業務利益	3	+2	
経費(臨時処理分除く) (▲)	159	+1	24.5%
コア業務純益	72	+19	34.1%
除く投資信託解約損益	72	+19	34.1%
信用コスト(▲)	▲3	▲3	-
有価証券関係損益	1	+0	
経常利益	83	+26	37.1%
当期純利益	61	+18	39.6%

決算のポイント

- 法人向け貸出の利回り上昇や個人向け貸出の増加などにより**貸出金利息が増加**したほか、円債の積み増しによる**有価証券利息配当金の増加**により、**コア業務純益は増益**。
- 信用コストや有価証券関係損益に大きな動きはなく、**経常利益、当期純利益についても増益で推移**。

当期純利益の増減要因



2. 業績概要（連結決算）

前年比増収増益、子会社の業績も前年から良化

【連結】 (単位：億円)	'24/6期 実績	前年 同期比	計画 進捗率
連結コア粗利益	237	+23	25.5%
資金利益	186	+15	
貸出金利息	148	+7	
有価証券利息配当金	37	+8	
その他資金収支	0	▲0	
役務取引等利益	40	+3	
その他業務利益	10	+19	
経費(臨時処理分除く)(▲)	170	+3	24.5%
連結コア業務純益	66	+20	28.1%
除く投資信託解約損益	66	+20	28.1%
信用コスト(▲)	▲1	▲2	
有価証券関係損益	1	+0	
連結経常利益	73	+25	31.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	52	+20	33.5%

子会社の状況				
(単位：億円)	経常収益	'23/6	'24/6	前年 同期比
	純利益※			
札幌北洋リース	経常収益	60	58	▲1
	純利益	2	1	▲1
ノースパシフィック	経常収益	5	5	▲0
	純利益	0	0	▲0
北洋証券	経常収益	3	4	+1
	純利益	▲1	▲0	+1
北海道共創パートナーズ (HKP)	経常収益	2	3	+0
	純利益	▲0	0	+0
その他2社	経常収益	6	6	▲0
	純利益	0	0	+0
連結子会社合計	経常収益	78	79	+0
	純利益	1	2	+0

3. 資金利益・貸出金利息・預金

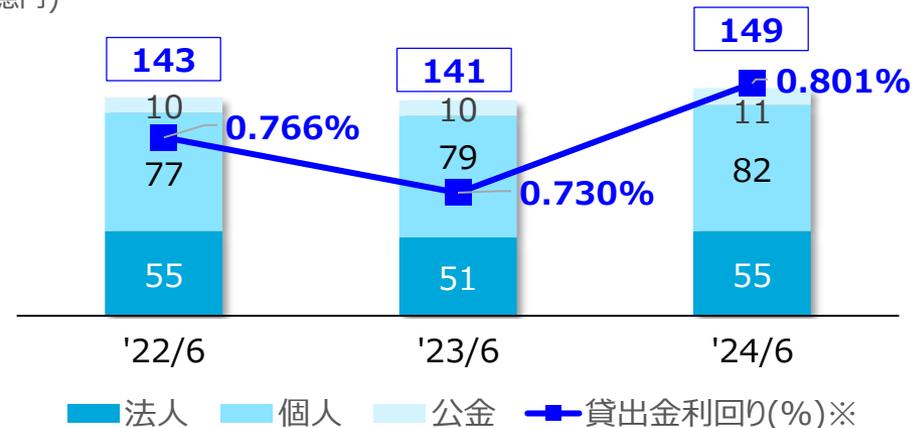
貸出金利回りが上昇し預貸収支は改善 預金は増加を継続

※ 財務省貸出を含む

【単体】 (単位：億円)	'23/6期 実績	'24/6期 実績	前年比
資金利益	183	200	+17
預貸収支	141	144	+3
貸出金利息	141	149	+7
預金NCD利息(△)	0	4	+3
有価証券利息配当金	40	50	+10
円債	11	18	+7
外国証券	2	1	▲1
株式	23	27	+3
その他	2	3	+1
うち投信解約益	0	0	0
その他資金収支	2	5	+3
資金利益(除く投信解約益)	183	200	+17

貸出金利息・貸出金利回りの推移

(億円)



預金平残の推移

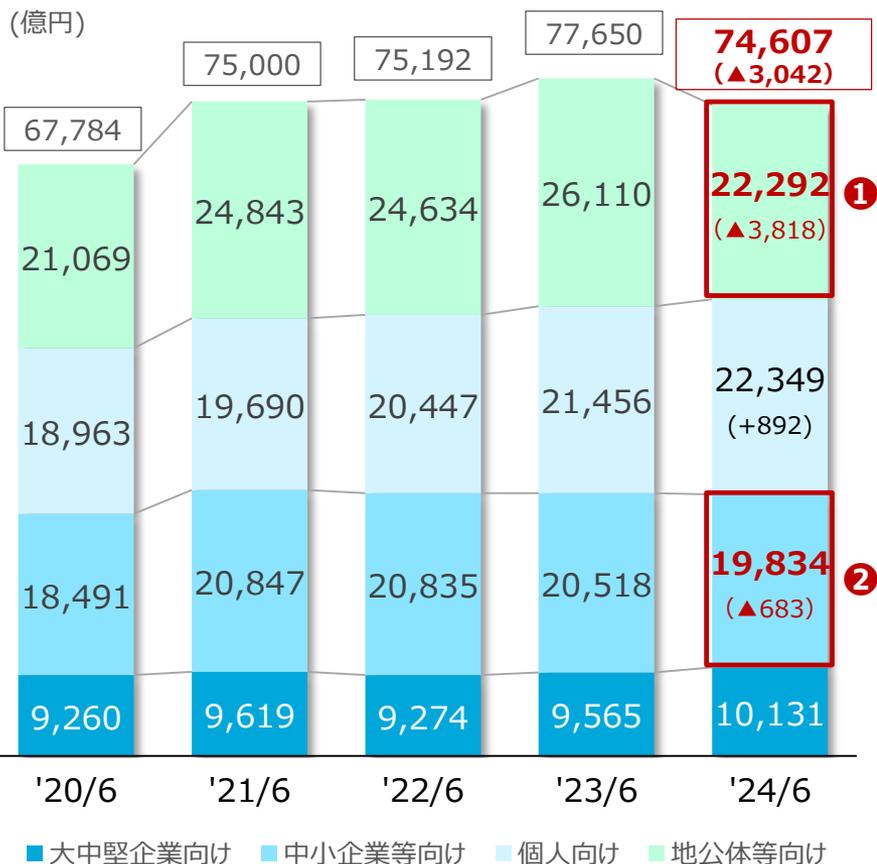
(億円)



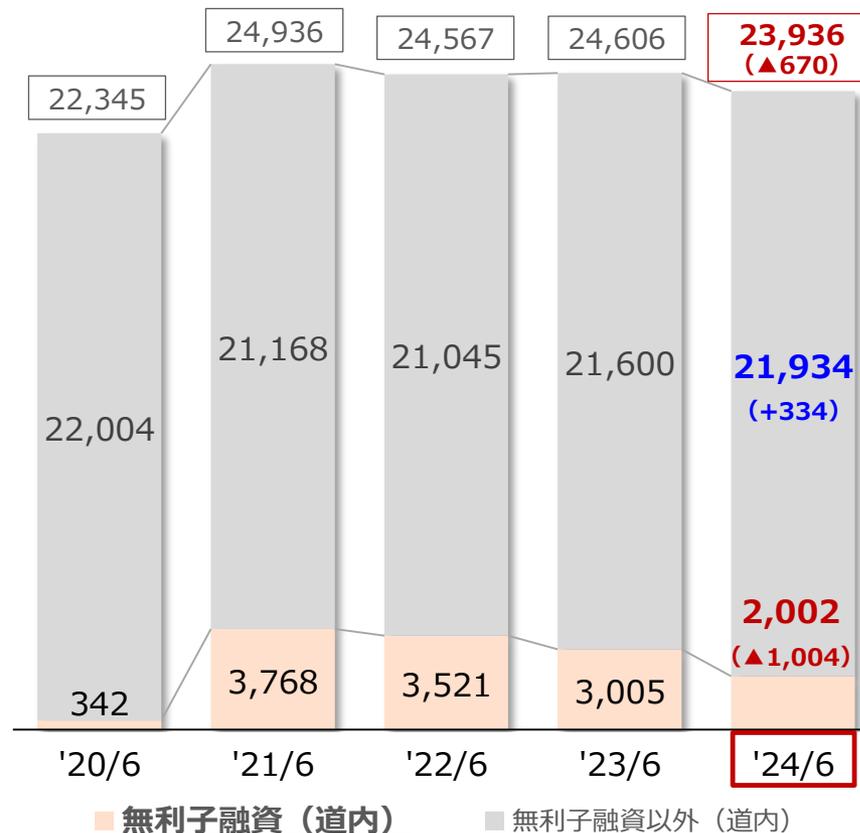
4. 貸出金

財務省貸出が大きく減少 無利子融資以外の貸出は増加

貸出金平残の推移



無利子融資の推移 (平残)



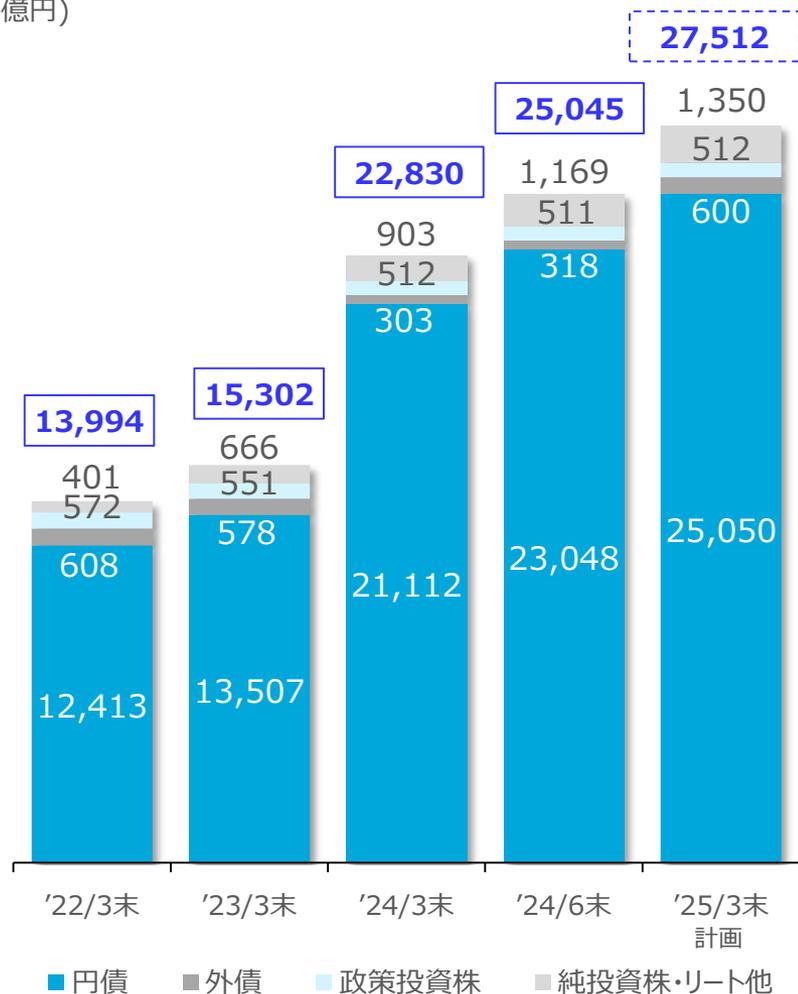
- ① **うち財務省貸出 5,774** (前年比▲3,082) ⇒ マイナス金利解除に伴う余資運用の減少
- ② **うち道内中小企業 18,512** (前年比▲874) ⇒ 無利子融資の想定以上の減少「期限前返済」(▲1,004)

5. 有価証券運用

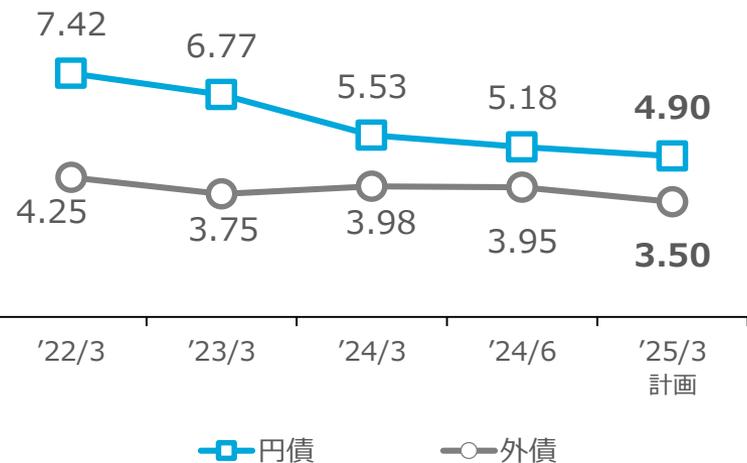
円債を中心に残高を積上げ デュレーションは短期化が進む

有価証券残高実績

(億円)

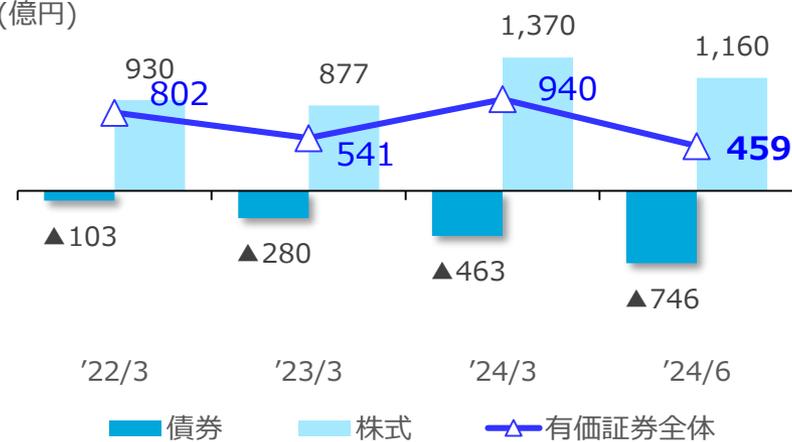


債券デュレーション (年)



有価証券評価損益

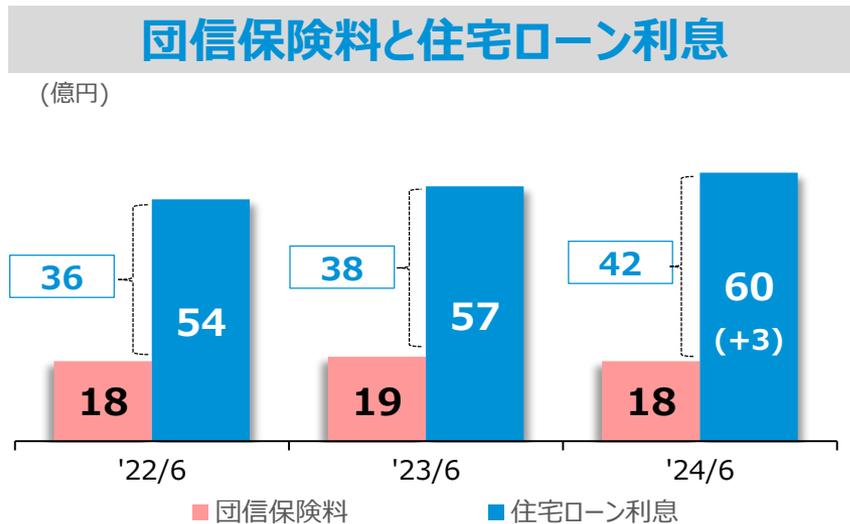
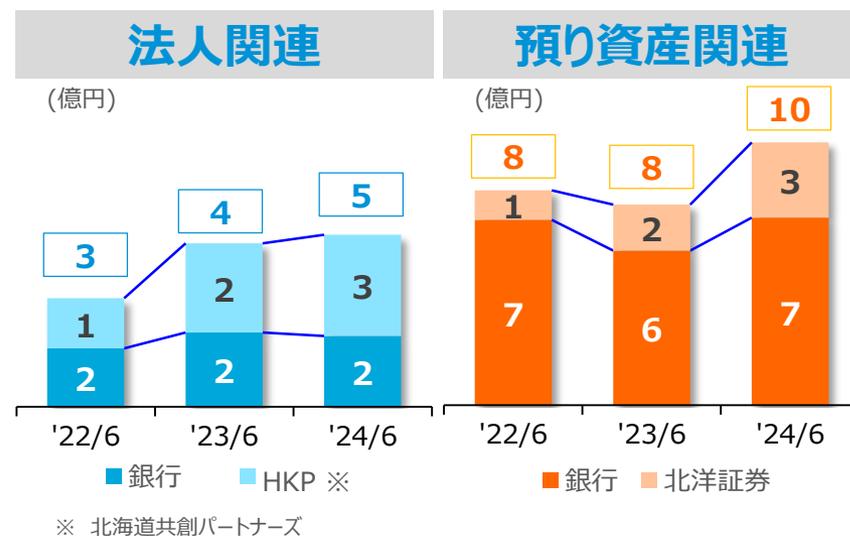
(億円)



6. 役務取引等利益

グループ総合力を高め、法人関連・預り資産関連ともに増加

【連結】 (単位：億円)	'23/6期 実績	'24/6期 実績	前年比
法人関連	4	5	+0
法人融資関連	1	1	▲0
ソリューション関連	0	0	▲0
HKP	2	2	+0
預り資産関連	8	10	+2
投信・保険	6	7	+1
金融商品仲介	0	0	+0
北洋証券	1	3	+1
団信保険料	▲19	▲18	+0
為替手数料	13	15	+1
他子会社 (HKP・証券除く)	10	10	▲0
その他	21	18	▲2
合計	37	40	+3

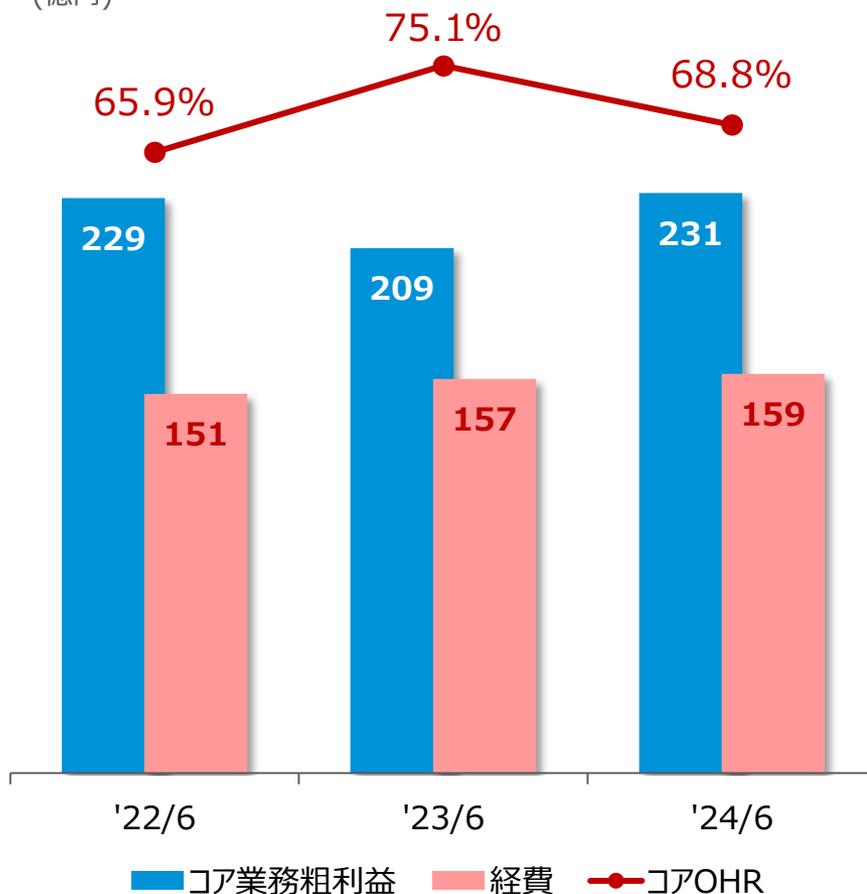


7. 経費

特殊要因は無く、経費は前年同水準

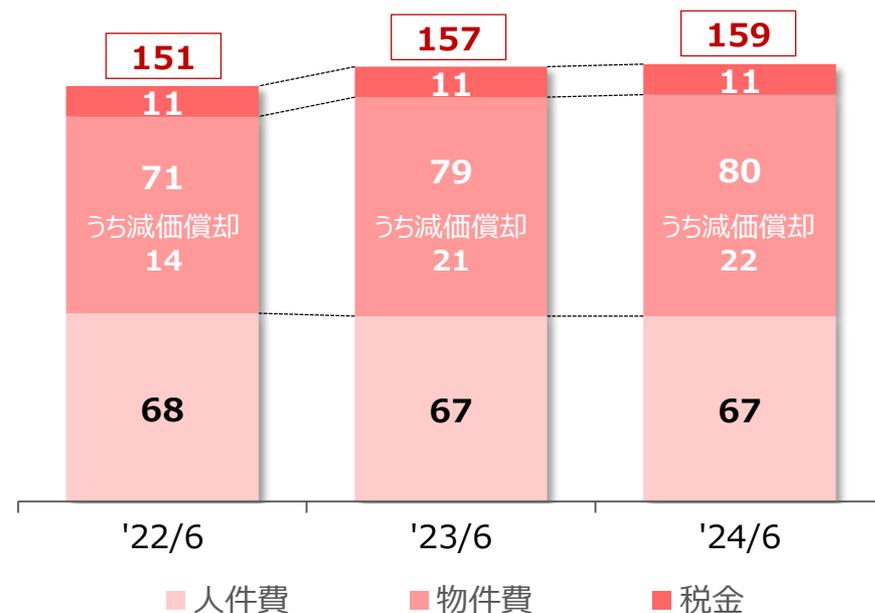
経費・コアOHRの推移

(億円)



経費の内訳

(億円)



【前年比主な増減要因】

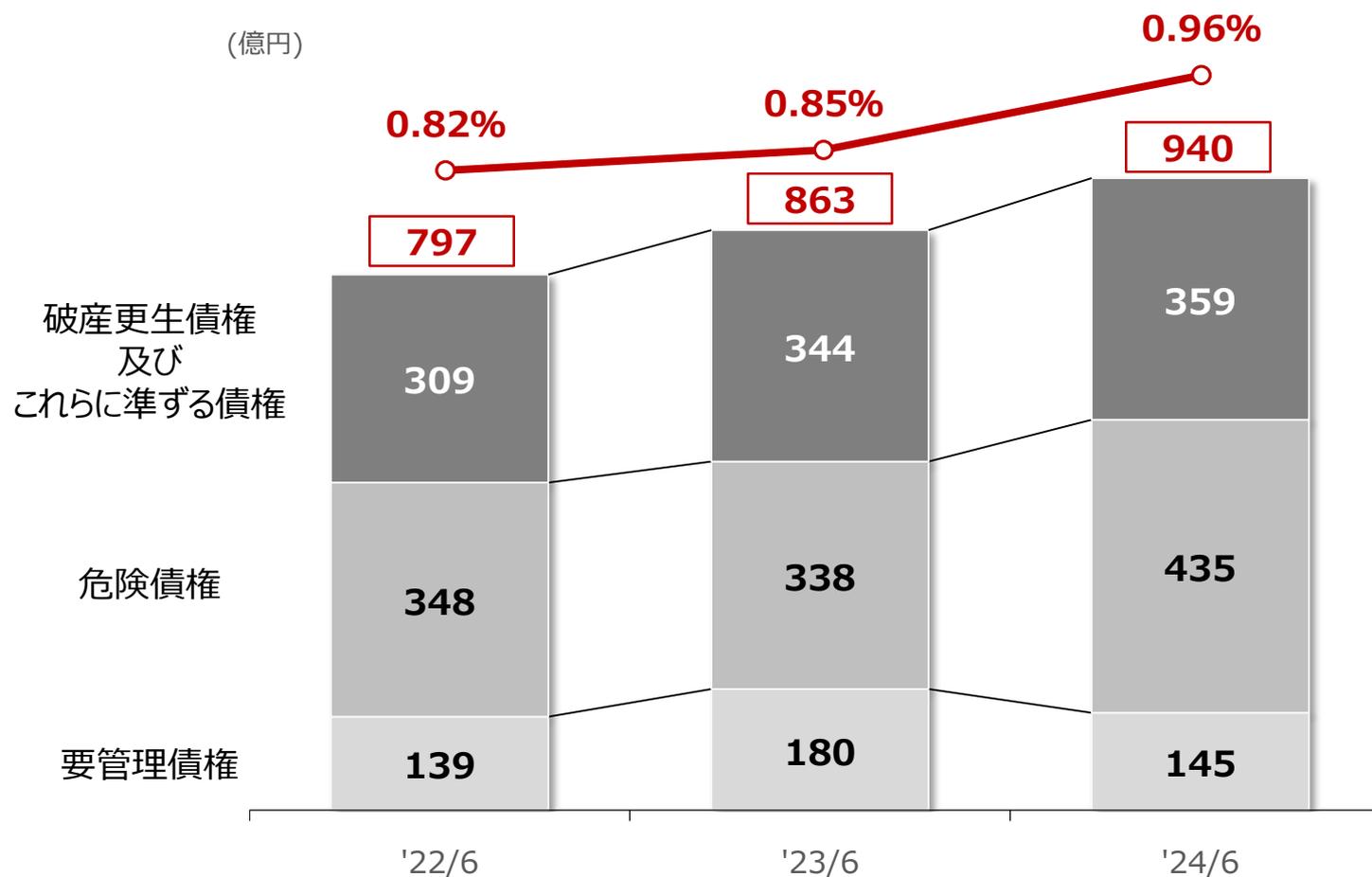
人件費 +0.8 ⇒ 賃上げ実施による

物件費 +0.8 ⇒ 業務委託費+1 (システム利用料増加など)

8. 開示債権

開示債権比率は引続き低水準を維持

開示債権額・比率※【単体】



※ 部分直接償却を実施した場合の総与信に占める開示債権の比率

9. 2025年3月期業績予想

2024年5月30日 第24回インフォメーション・ミーティング資料 再掲

道内成長投融资、金利環境の変化を主因に増益を見込む

【単体】	(単位：億円)	2024/3期 実績	2025/3期 計画	前年比
コア業務粗利益		826	860	33
資金利益		718	747	28
貸出金利息		582	616	33
有価証券利息配当金		132	141	8
その他資金収支		6	14	8
役務取引等利益		102	101	△ 0
経費(臨時処理分除く)(▲)		624	648	23
コア業務純益		201	211	9
除く投資信託解約損益		186	211	24
信用コスト(▲)		60	20	△ 40
経常利益		177	224	46
特別損益		△ 3	△ 3	△ 0
当期純利益		128	154	25
【連結】	(単位：億円)	2024/3期 実績	2025/3期 計画	前年 同期比
連結コア粗利益		887	929	41
経常利益		186	234	47
親会社株主に帰属する当期純利益		128	155	26

決算のポイント

■ 利益増加要素

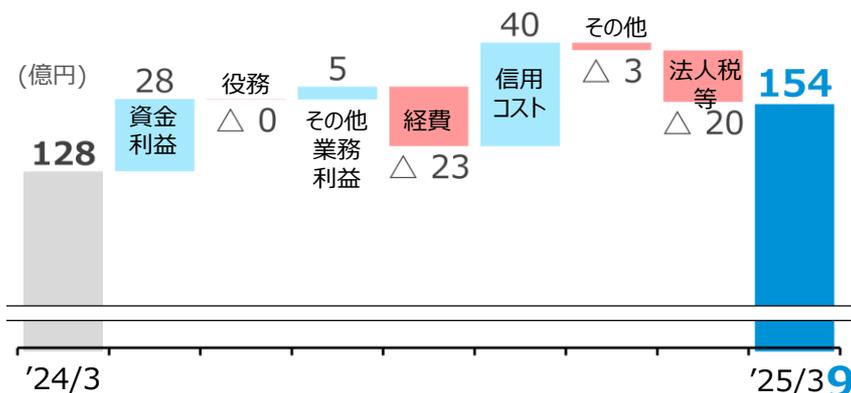
【 】は前年比増減

- ①道内成長期待分野などの貸出ボリュームの増加【20】
- ②日銀金融政策変更による貸出金利回りの改善【13】
- ③有価証券運用益の増加【8】
- ④日銀当座預金の預け金利息の増加【8】
- ⑤信用コストの減少（平準化）【40】

■ 利益減少要素

- ①預金支払利息増加【21】
- ②凍結していたシステム等の投資再開による経費増加【10】
- ③法人税等調整額の増加（前年特殊要因有）【20】

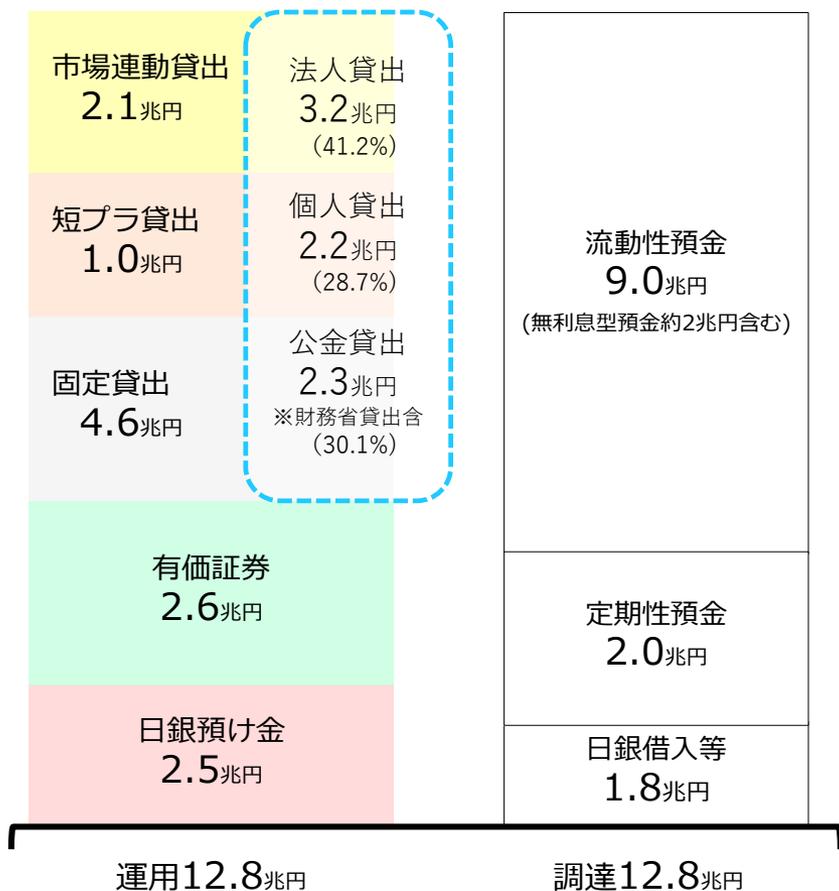
単体当期純利益の増減要因



10. 金利上昇の影響

政策金利引上げによる期間収益への影響を試算

2025/3期(平残見込)



試算条件

■ 2024年7月→政策金利0.25%

- ・ 国債10年金利 **0.83%**
- ・ 市場金利(3ヶ月TIBOR) **0.57%** ※貸出の追随率は70%
- ・ 預金金利は、普通預金を0.10%に引き上げ(追随率53%)

2025/3期 期間収益への影響



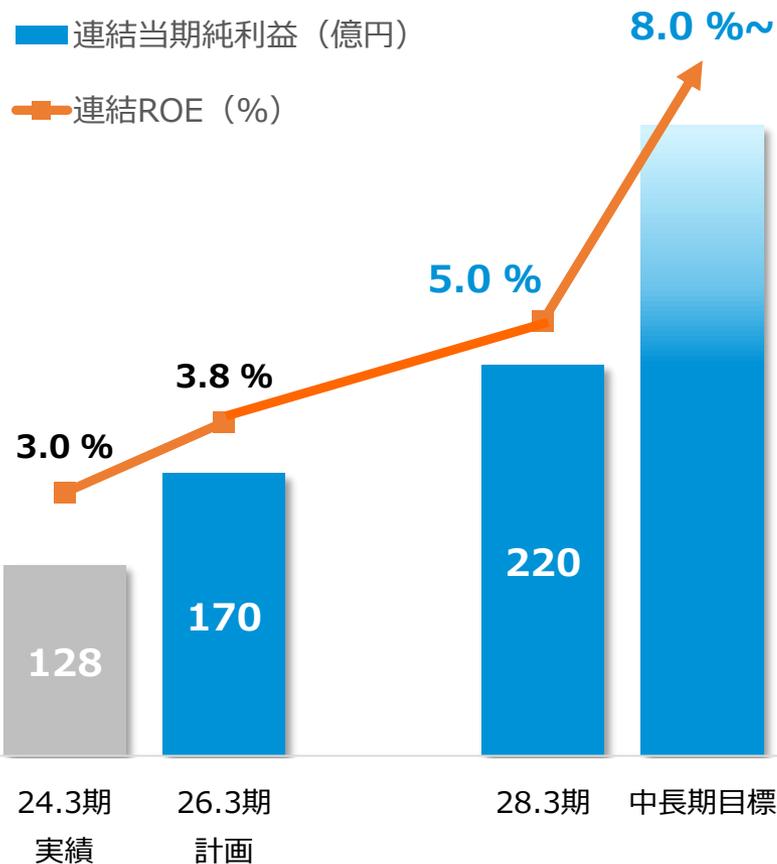
Ⅱ. その他トピックス

1. ROE向上にむけて

2024年5月30日 第24回インフォメーション・ミーティング資料 再掲

トップライン収益の強化とコストコントロール、 資本政策によりROE向上を加速化させる

ROEと利益水準のイメージ



トップライン収益の強化

▶ 成長期待分野への投融資

- 法人部門・個人部門

コストコントロール

- チャンネル戦略
- デジタル戦略

資本政策

- 自己資本比率・株主還元

▶ 政策保有株式の縮減

ラピダスプロジェクトの進捗に伴い融資額も増加中

半導体関連融資の状況（累計ベース）

ラピダス社第1工場 工事マイルストーン

起工式

2023年9月

地上躯体工事完了

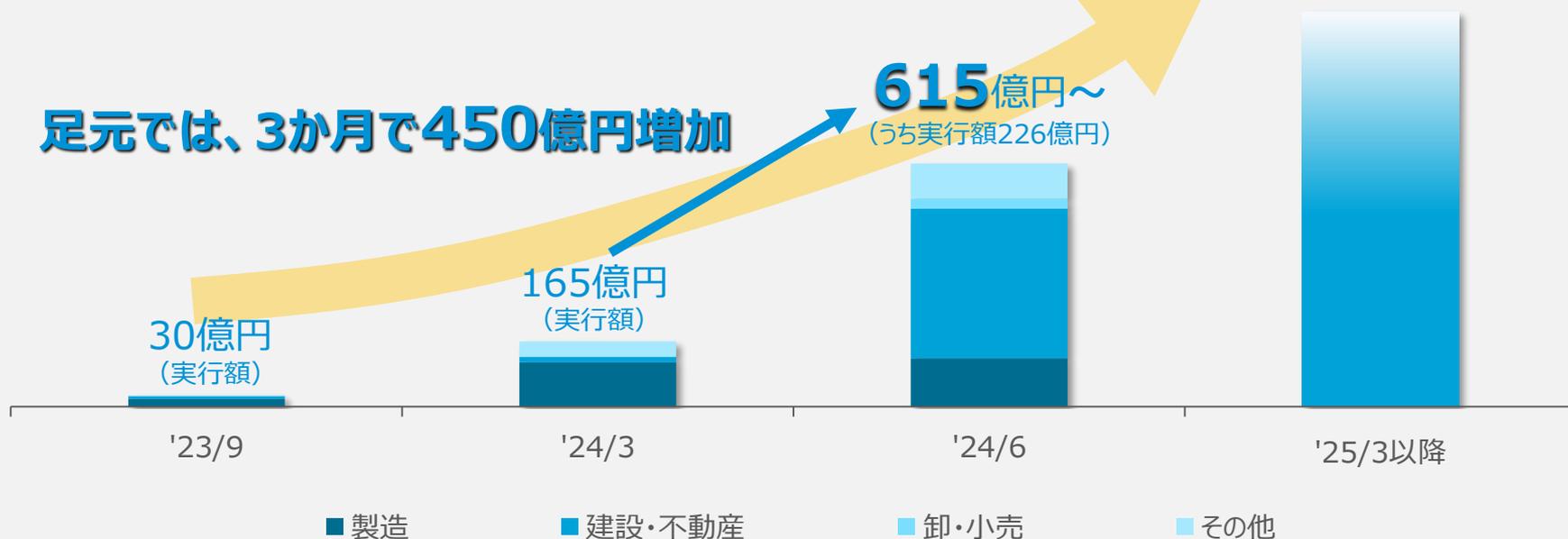
2024年12月

試作ライン稼働開始

2025年4月

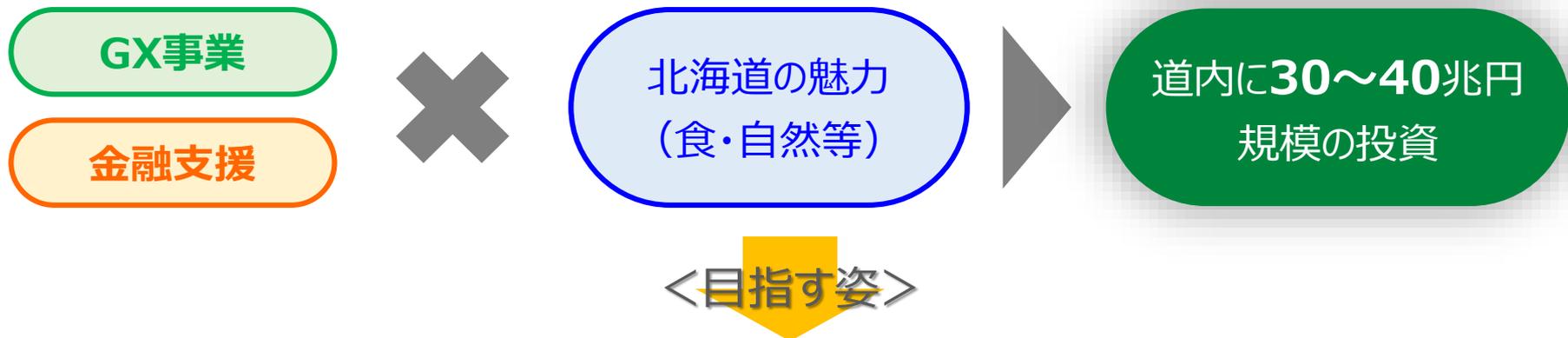
足元では、3か月で450億円増加

融資額が増加



2. 成長期待分野への投融資 ～GX関連～

本年6月、北海道・札幌市が「GX金融特区」に選定



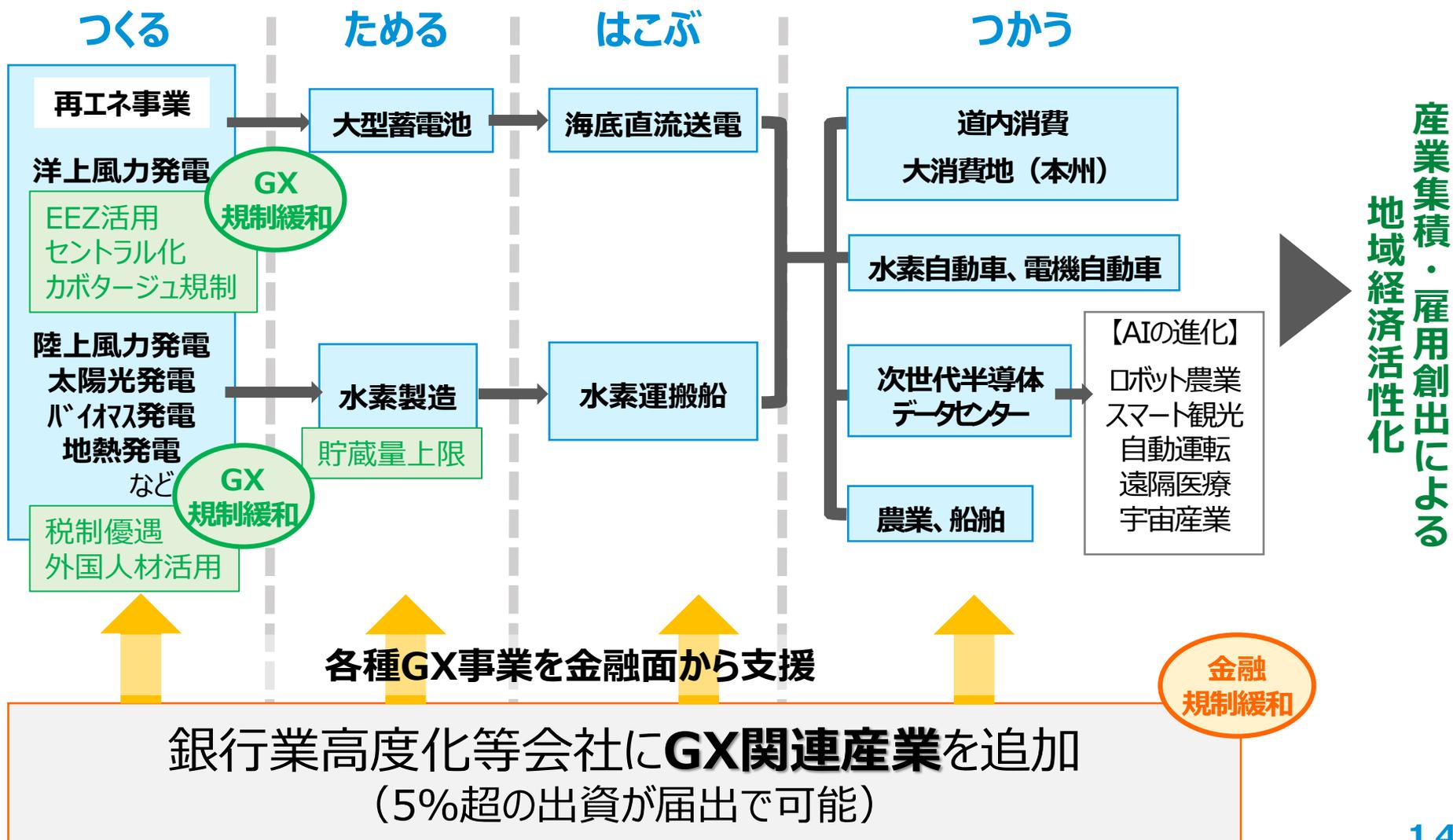
世界から資金が集まる『国際金融都市』・日本の『再エネ供給基地』

当行が特区機能を使って取り組むこと (一例)

- GX出資案件の発掘
- 地域・道民のメリット創出

2. 成長期待分野への投融資 ～GX関連～

本年6月、北海道・札幌市が「GX金融特区」に選定



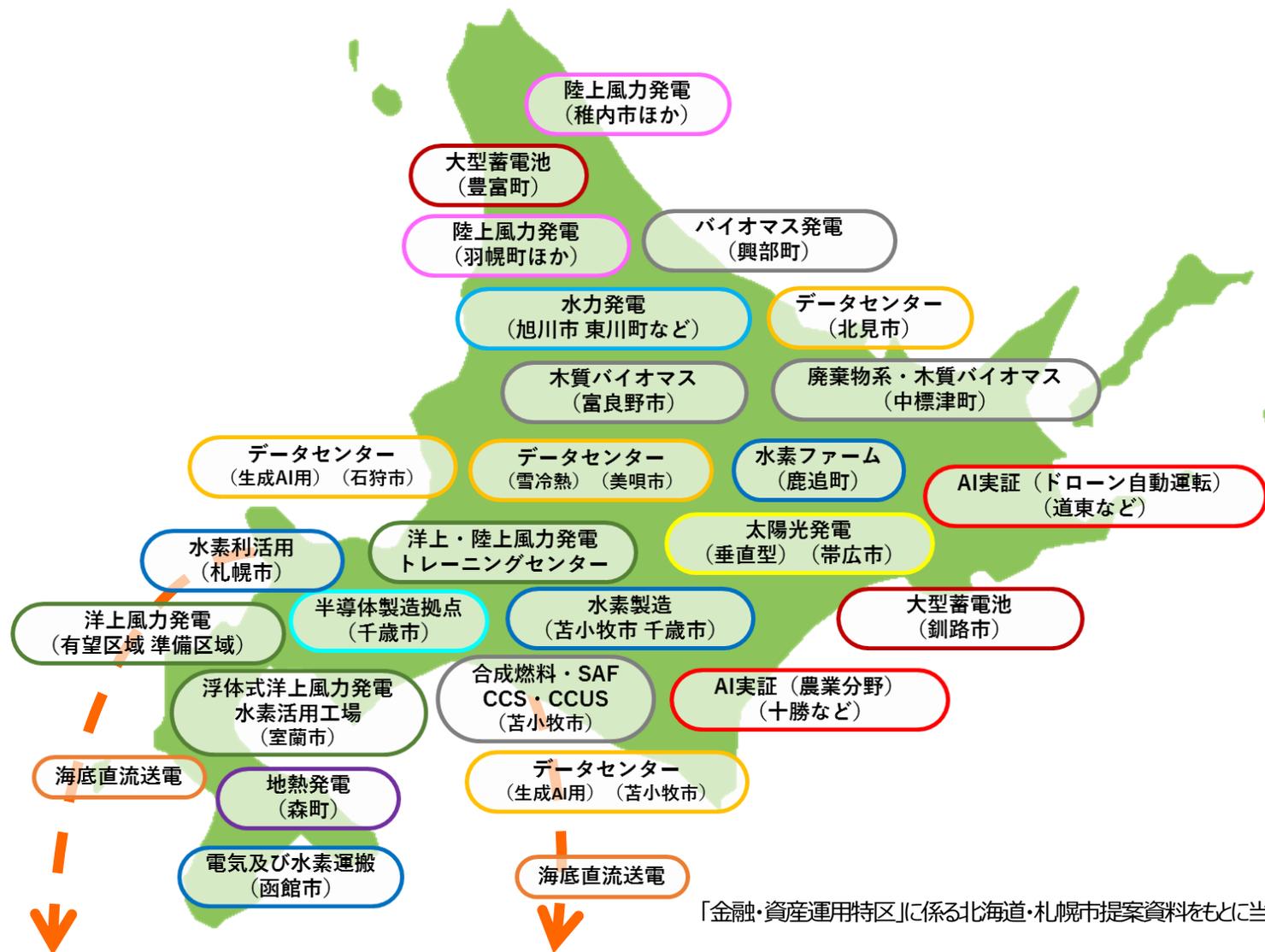
2. 成長期待分野への投融資 ～GX関連～

本年6月、北海道・札幌市が「GX金融特区」に選定



2. 成長期待分野への投融資 ～GX関連～

道内全域にGXの適地が存在



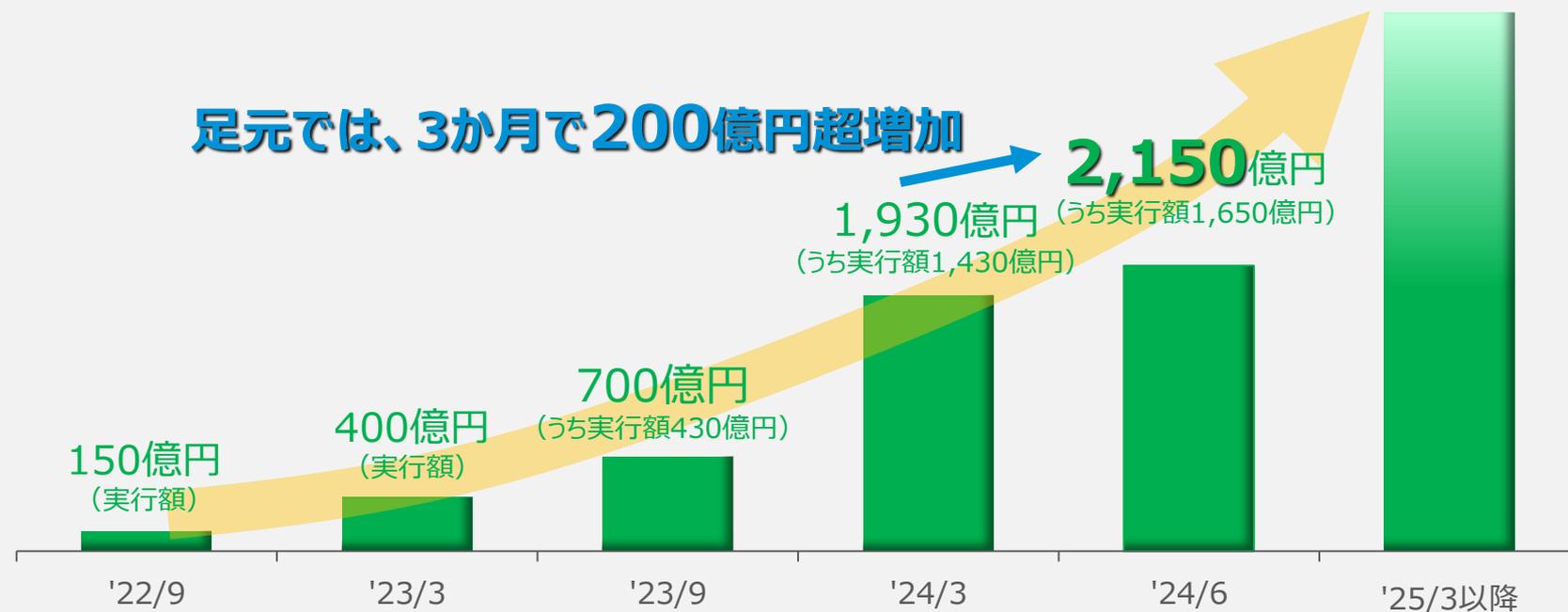
「金融・資産運用特区」に係る北海道・札幌市提案資料をもとに当行が作成

2. 成長期待分野への投融資 ～GX関連～

GX投資に係る融資は大幅に増加

関連融資の状況（累計ベース）

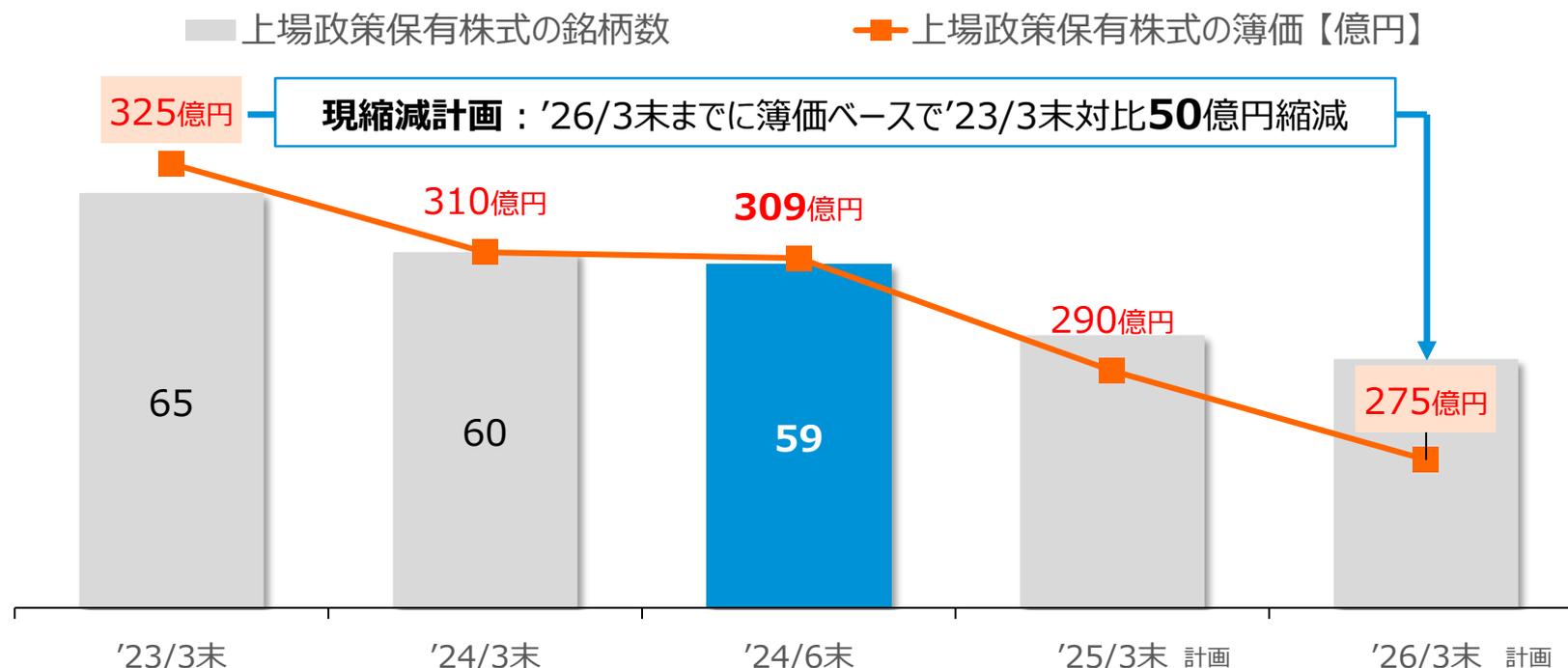
融資（含む道外案件）は大幅に増加



3. 政策保有株式

政策保有株式の更なる縮減へ

上場政策保有株式の銘柄数と簿価の状況



現在の計画から更なる縮減を進める

新たな縮減計画の策定に向け行内協議を開始

株式会社北洋銀行

2025年3月期 第1四半期 スモールミーティング 説明資料

2024年8月8日

作成:株式会社北洋銀行 経営企画部 経営企画グループ (IR担当)

〒060-8661

札幌市中央区大通西3丁目7番地

電話 011-261-1693

E-mail :ir@hokuyobank.co.jp
